



- 永代共養墓について
- ぶつぐら雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつぐらクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の同窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第25回 私の知らない私

BI 0 | m チェック | いいね! 0 | Tweet

何十年も生きてると、「自分」という人間に関することはすべて手に取るように知り尽くしていると錯覚しがちです。

けれども本当のところ、私たちは自分のことをどれだけわかっているのでしょうか。たとえば、

「あなたの背中、どこどこにホクロがありますか。今すぐ絵に描いて示してください」

と問われたら、多くの人は答えに窮するのではないのでしょうか。

からだの外側のことでさえそうなのですから、内側のことなんて知る由もありません。

もう30年ほど前のことになりましたが、運動をしていて肩を痛め、念のためにレントゲンを撮ってもらったことがありました。

そのとき私は生まれて初めて自分の「骨の写真」をつくづく眺めたのですが、そこに待っていたのは、予想だにしない驚きの事実でした。なんと私の左の鎖骨は、右の鎖骨の2.5倍も太かったのです!

このとき、お医者さまが肩をさわりながらおっしゃったことを、私は今も忘れません。

「これは、左右どちらか一方の腕だけを酷使する職業の人に見られる症状です。むかしはこういう鎖骨の持ち主 がいいたのですよ。たとえば、木こりがそうです。しかし現代人にはほとんど見かけません。貴女の鎖骨はなかなか貴重なので、次の学会で発表する資料としてこのレントゲン写真を使わせていただいでよろしいですか」

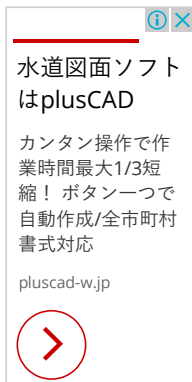
お医者さまは、そうおっしゃったのです。

左右どちらかの腕を酷使した覚えなどない私は、ただただビックリ。「少しでも医学の発展に貢献できるのであれば、喜んで写真を提供します」と苦笑しながら顔(うなず)くのがやっとなりました。

この一事からもおわかりのとおり、自分のことなんて、理解しているようで実はまるきりわかっていないのかも知れません。

また、こんなこともありました。私は子どもの頃から腸がややデリケートなのですが、今から22年前のある日、疲労がたまって右の下腹部に激痛を覚え、ついに都内の某有名病

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



院に緊急入院することになりました。

診察の結果、命にかかわる病気ではないことはわかったのですが、ともあれ腸が炎症を起こしていることは確かなので、絶食を言いわたされ、点滴を受けながら入院ということになりました。

完全な絶食は、これが生まれて初めての経験です。点滴で栄養を補給されているとはいえ、胃腸がカラッポになってゆく感じはなんとも異様なものでした。

自分のからだの中にある一本の長い長い消化管の存在を、このときほどハッキリと感じたことはありません。

さて、絶食を開始して数日が経過した、ある朝のこと。目覚めると、世界が一変していました。なんと私の鼻は、犬の鼻になっていたのです。

こう書くと、まるでカフカの『変身』の冒頭のようにですが、私の鼻は「形」が犬の鼻になったわけではなく、「能力」が犬の鼻のように変わっていたのです。そうです、その朝から私の鼻は、おそろしい嗅覚を備えてしまったのです。

具体的にいえば、ドアを開けて主治医が入ってくるたびに、白衣にしみついた薬品のおいにおもつかつく。看護師さんのシャンプーの残り香にもおもつかつく。

そのほか、誰かがドアを開けて部屋に入ってくるたびに、新しいにおいがドッと部屋に押し寄せて、私はひどい吐き気を催すのです。

その症状は時間の経過とともに悪化の一途をたどり、同じ日の昼頃には、広い病院の別の階にある売店から漂ってくるにおいをも感知するようになりました。

そして、その日の夕方までには、なんと1キロも離れたところにある中華料理店のシナチクのにおいが嗅ぎ分けられるほどになってしまったのです。

それはまさに、「においで気が狂うのではないか」と思われるほどの凄まじい嗅覚。まさに「鼻だけ犬になった気分」です。しかし、そのことをお医者さまに相談しても、

「うーん、それなら精神安定剤を出してみましようかねえ」

という頼りない答えが返ってくるばかりで、まったく埒が明きません。

悶々としながら夜を明かし、翌日、お見舞いに来てくれた漢方医学に詳しい義姉をつかまえて薬にもすがる思いで症状を訴えたところ、義姉からは即座に次のようなアドバイスが返ってきました。いわく、

「完全な絶食をすると、人によって感覚がおそろしく鋭敏になり、常人ではありえない“超人的な能力”を発揮することがあります。ある人は千里眼のような状態になり、またある人は地獄耳のような状態になるのです。真美さんの場合は、一時的に、嗅覚だけがおそろしく鋭敏な“超人”になっているのでしょう」

「この場合、精神安定剤を飲むことで一時の気休めにはなるでしょうが、根本的な解決にはなりません。鼻をもとに戻すのは、実は簡単なことです。すなわち、断食をやめればいいのです。心配しなくて大丈夫！ 一口でも胃袋に物が入れば、あっという間にもとの“人間”に逆戻りしますよ」

私はすぐに担当医を呼び、断食をやめてくれませんかとお願ひしてみました。先生は「それでは流動食を開始しましょうか」と言ってくださり、お昼になるとドロドロの重湯（おもゆ）が運ばれてきました。

何日ぶりかで口にする食べ物。それは、水分がほとんどで米粒はまったく見えない重湯でしたが、一口、二口と食べ進めるうちに、私は、それまで私のからだをがんじがらめにしていた紐がスルスルと抜けるように、からだがラクチンになるのを感じました。

数分後にはすっかり気持ちが落ち着いて、それまで頭の大部分を占めていた「におい」の

ことが、それほど気にならなくなってきたのです。

そして、およそ1時間後には、まるで今までのことが嘘のように私の鼻はもとどおりになり、1キロ先の中華料理店のシナチクのにおいはおろか、病院の売店のにおいも、看護師さんのシャンプーのにおいも、少しも気にならなくなったのでした。

あれから22年。私の鼻が「犬の鼻」になることは、あれ以来一度もありません。

しかし、私は知っています。人間の肉体の奥底には、ふだんは眠っているけれど、実は自分自身も知らない“とんでもない能力”の数々が隠されているのだということ。

本気になれば、あるいは、必要に迫られれば、私たちは自分でも驚くほどの能力を発揮できるのに違いありません。

「私ってこういう人間なのよ」と思っている、実は、その先にはさらに未知の自分がある。だからこそ、人生は面白いのだと思います。

◀ 第24回 記憶と感情 第26回 空海さんの謎 >

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。

1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



不動明王が守る

高野山伝燈大阿闍梨が開眼入魂 凄まじい開運力、一寸不動明王
j-reimei.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



[永代供養墓 密厳霊塔](#)
[いいなまち みとら](#)
[こんごういんキッズ](#)
[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)
[唱えてみよう!](#)
[たいけんしてみよう!](#)

[真言宗について](#)
[仏教いちねんせい](#)
[まんが 小坊主くん!](#)

[金剛院イベント情報](#)
[金剛院NewS](#)
[金剛院について](#)

[メールを送る](#)
[おすすめリンク集](#)
[バックナンバー](#)
[サイトマップ](#)

好きなことをして飯を食う手順

18186人が読んでいる無料メルマガ。あなたの強みを活かしたビジネスの作り方 personal-promote.comへ進む

